

平成30年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成31年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成30年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成31年3月

福井県教育長 東村 健治

項目	実施結果
<p>1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略</p> <p>◇幸福日本一福井へ 移住・定住戦略 ○地場産業の宝庫・福井でチャレンジの夢ひらく</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通科高校1年生の企業訪問について、文系・理系・女性などのコースを増やすとともに、企業を紹介するパンフレットを家庭に配付し、福井の職業や企業の魅力を伝え、大学卒業後に福井で働く意識を高めます。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>嶺南地域の企業を新たに追加するなど訪問先企業を62社に増やすとともに、パンフレットの内容を見直し訪問前に企業の理解を深めました。</p> <p>夏休みを中心に921人が県内企業を訪問し、ふるさと福井の職業や企業について学ぶとともに、県外の大学から福井に戻って就職した若手社員と意見交換を行うなど、将来福井県で働く意識を高めました。</p>
<p>2 福井から人材育成</p> <p>◇「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】 ○「ふるさと教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 全中学・高校の授業等で「ふるさと福井の先人100人」を活用し、先人の生き方や考え方について発表や討論を行う学習を進め、福井や自らの将来を考える機会を増やします。 福井ゆかりの百人一首などを取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート」に童謡や唱歌を追加して内容を充実し、小・中学生が古典に親しむ機会を増やします。 白川静博士の書籍を活用して白川文字学を学ぶ研修を行い、学校での漢字教育をリードする漢字指導者を増やします。 (平成29年度 累計285人) <p style="text-align: center;">漢字指導者数 15人増 累計300人</p>	<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>中学校では、道徳の時間等に学習内容にあわせて計20人を学習しました。</p> <p>また、高校では、ホームルーム等で各学年10人を学習し、先人の生き方や考え方を学び、進路選択等の指針として活用しました。</p> <p>全小・中学校において、内容を充実させた教材を国語等の授業、朝の会や帰りの会等で活用しました。また、8月の全小・中学校対象の研修会では、各校の様々な活用の好事例を紹介するとともに、8月および12月に教材を活用した授業方法の研修会も実施しました。</p> <p>白川静博士の著作を読み、研究内容の理解を深め教材研究に活かす教員向け研修を3回実施し、199人が参加しました。また、学校での漢字教育をリードする漢字指導者を20人増やしました。</p> <p style="text-align: center;">漢字指導者数 20人増 累計305人</p>

項 目	実 施 結 果
<ul style="list-style-type: none"> ・「間違いやすい漢字」ワークシートの作成や「白川文字学こども漢字教室」の開催により、白川文字学を活かした漢字教育を推進します。 ・書道団体と連携し、学校に書写・書道指導員を派遣するとともに、筆使いの基本など、全小・中学校教員対象の実技講習会を実施します。 ・本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による授業を引き続き全ての県立高校で実施します。 ・教育博物館の展示施設を充実し、小・中学校の校外学習などでの利用を促進するとともに、幕末・明治の教育に関する企画展を開催し、全国トップクラスの福井の教育を県民や全国に発信します。チャレンジ施策 	<p>学力調査の分析等を踏まえて間違いやすい漢字を選定し、白川文字学による解説を加えることで漢字を正しく習得できる教材を作成し、全小・中学校に配付しました。また、子どもたちの漢字への興味関心を学校外でも伸ばしていくため、新たに「白川文字学こども漢字教室」を8回（嶺北5回・嶺南3回）開催し、418人が参加しました。</p> <p>小・中・高校64校に書写・書道の外部指導員を派遣し、児童・生徒の書字能力と教員の指導技術を高めました。 また、実技講習会に285人の教員が参加し、小・中学校の書写担当教員の指導力向上を図りました。</p> <p>本県ゆかりの企業経営者等が「ふるさと先生」となり、高校生が将来の福井や自分の生き方を考える契機とするため、国際的な挑戦、夢の実現、リーダーとしての役割などについての授業を全ての県立高校で実施しました。</p> <p>幕末明治福井150年博関連イベントとして、幕末・明治の教育に関する企画展を開催しました。また、9月には福井国体へのご出席に合わせて天皇皇后両陛下が来館され、昔の教科書などをご覧になられました。 昨年度より1,225人多い8,769人が来館し、より多くの方に福井の教育を発信することができました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○外国語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度から開始される英語教科化の先行実施において、県が作成した指導案や教材、評価テストをもとに全ての小学校で授業改善を進めるとともに、NHK語学番組を活用した小学校教員対象の研修会を実施します。 ・平成30年度県立高等学校入学者選抜の結果を分析し、中学・高校の校長会や有識者の意見を聞いた上で英検加点制度の検討を行うとともに、試行テストを実施し、話す力を測るスピーキングテストの導入に向けた検討を行います。 ・英語のコミュニケーション活動を充実させた授業を進めるとともに、中学校において培った英語力をさらに向上させるため、NHK語学番組の講師による高校生向け講座を行います。 ・日本での授業経験が豊かなALTを中心にALT同士で指導方法を共有する場を設けるとともに、日本語講座を実施し、ALTの指導力や日本語力を高めます。 (平成29年度 中学生62.8% 高校生52.4%) <p>英検3級相当以上を取得した中学生 63.0% 英検準2級相当以上を取得した高校生 52.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語教育を進めるため、大学教授などによる高校生向け講座や、中国人留学生との交流を行います。 	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>県が作成した指導案や教材、評価テストを配付し活用方法についての研修を行い、全小学校から328人が参加するとともに、指導主事の学校訪問により授業改善を促進しました。 また、NHK語学番組を活用した研修を実施し、小学校教員195人が参加しました。</p> <p>入学者選抜の結果分析や有識者の意見を踏まえ、7月に英検加点制度の見直しを実施しました。 (加点は一律5点、加点対象級は学校・学科ごとに決定) また、8～9月に中学3年生3,446人を対象に試行テストを実施した結果、試験中に周囲の音が聞こえるなどの課題があり、現状のままでは入試での利用が困難なことが判明したため、引き続き導入に向けた検討を行っていきます。</p> <p>中学・高校で英語のやりとりやディベートなどコミュニケーションを充実させた授業を進めるとともに、県立高校8校でNHKラジオ講座講師による講座を各1回実施しました。</p> <p>経験豊かな中学・高校のALTが授業を公開し、授業方法の検討を5回実施しました。また、日本人教員による日本語講座を3回実施し、ALTの日本語力向上を図りました。 さらに、全中学・高校で、休み時間等にALTと生徒が互いの言葉や文化について教え合う機会を設けました。</p> <p>中学校では、話す力等の育成を重視しALTの活用や授業改善を進めており、英検準2級以上の取得は昨年度より2.9pt増加したものの3級の取得が減少し、目標達成に至りませんでした。 今後は、生徒の関心が高い話題や日常生活・外部検定試験等で使用頻度が高い表現・語彙を取り入れ3月に作成した県独自教材を生徒の学習段階に応じて活用し、実際に英語を使用する機会をさらに充実させることで、小学校で底上げした英語力を一層伸ばし、3級以上の取得を増やしていきます。</p> <p>英検3級相当以上を取得した中学生 61.2% 英検準2級相当以上を取得した高校生 56.0%</p> <p>足羽高校において、大学教授や有識者による中国語や中国文化、経済等の授業を実施するとともに、福井大学の中国人留学生との交流により、生徒の中国語力の向上を図りました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇「福井型18年教育」の進化【部局連携】</p> <p>○幼児教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町幼児教育アドバイザーや園内リーダーを養成するとともに、幼児教育支援センターによる巡回訪問を増やします。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>市町において幼児教育を推進する人材を育成する「市町幼児教育アドバイザー養成研修」、園の中核となる人材を育成する「園内リーダー養成研修」を実施するとともに、巡回訪問を昨年度より18回多い163回実施しました。</p> <p>また、公私園種の枠を越えた合同研修を行い、集大成として幼児教育フォーラム（635人参加）を開催し成果を発表しました。今年度は、市町幼児教育アドバイザー26人、園内リーダー98人を認定しました。</p>
<p>○小・中学生の学力・体力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果を上げている学校の特長ある指導方法や教材を収集し全小・中学校に提供するとともに、指導主事による継続的な学校訪問を実施し、指導方法等の確実な定着・普及を図ります。 小学校高学年において理科の教科担任制を実施するとともに、英語の習熟度別授業の実施校を増やします。 小学校低学年の体育授業に補助指導者を派遣し、楽しく体を動かす習慣を身につけるとともに、小・中学校の体育授業に県内のトップアスリートを派遣し、ボールの投げ方や走り方を指導するなど、児童・生徒のさらなる体力向上を図ります。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小学3～6年（国・算・理）、中学1～3年（国・社・数・理）の優れた教材等を集約した教材・評価問題集を作成するとともに、教員対象の研修を実施し748人が参加しました。</p> <p>また、優れた学校運営の特長を分析した学校マネジメント集を作成するとともに、管理職対象の研修を実施し275人が参加しました。</p> <p>小学校の約7割（131校/190校）において、高学年での理科教科担任制を行い、専門性を活かした理科授業を展開しました。また、中学校の英語の習熟度別学習実施校を4校増やしました。</p> <p>補助指導者を小学校30校に派遣し、児童に体を動かす楽しさを実感させるとともに、児童それぞれの特性に応じた指導を行い授業の充実を図りました。</p> <p>また、県内トップアスリートを小学校20校、中学校10校に派遣し、正しいボールの投げ方や走り方の指導を行い、子どもたちの運動への意欲を高め、体力の向上に努めました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○「学力・体力」に加え社会参加を促進 ・児童・生徒が地域住民や企業とともに、まちづくりへの参画や農業体験など地域の課題等の改善を企画・提案する体験学習を全小・中学校に拡大します。 (平成29年度 累計142校)</p> <p>提案型の体験学習を実施する小・中学校 115校増 累計257校</p> <p>・主権者教育の指導事例集を活用し、高校の教員の研修を行うとともに、模擬選挙や国・地域の課題を話し合うなどの実践的な学習を行い、生徒に社会の一員としての意識を育てます。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>地域住民等と連携し、まちづくりへの参画や農業体験、伝統行事の継承など、児童・生徒が企画・提案する体験学習を全小・中学校で実施しました。</p> <p>提案型の体験学習を実施する小・中学校 115校増 累計257校</p> <p>5月に主権者教育指導者講習会を開催し、140人が参加しました。また、12月には教員および生徒78人が参加した主権者教育に係る講習会を開催し、福井の良いところや課題といったテーマによる討論や合意形成の仕方等の実践的な学習を実施しました。</p>
<p>○高校生の学力向上 ・進学への意欲を高めるため、高校入学時から保護者を含めた研修を行うとともに、高校1年生から生徒の志望にあわせた特別講座等を実施します。</p> <p>・大学進学サポートセンターにおいて、退職教員による学習会の内容の向上や交流会の開催、推薦入試等の学習支援を行い、既卒生に対する進学支援を強化します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>4月に1年生の生徒・保護者を対象に「高校1年生のための大学進学セミナー」を実施し、高校入学後の早い時期から生徒の進学意欲を喚起しました。また、1、2年生を対象に特別講座等を実施するとともに、8月には3年生対象の大学別研修を実施しました。</p> <p>大学進学サポートセンターに、高校を卒業した生徒80人が登録しました。センターを自習室として運営するとともに、国語、英語、数学、物理、化学の講師を配置し質問対応や学習会の開催、推薦入試等に係る面接練習を実施し、大学への進学を支援しました。</p>
<p>○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム ・企業が求める資格等の取得を支援するとともに、職業系高校の生徒の学習成果を福井フューチャーマイスターとして認定し、企業の即戦力となる人材を育成します。 (平成29年度 85.0%)</p> <p>福井フューチャーマイスター認定者割合 86.0%</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>福井フューチャーマイスター制度において、従来の「ブロンズ」、「シルバー」、「ゴールド」の3区分に加え、より高い目標を持って資格取得等に励む契機となるよう最上位ランクの「プラチナ」を創設しました。 また、資格取得に係る受検料の一部を支援し、生徒の資格取得やコンテスト等への意欲向上を図ったことで、福井フューチャーマイスターの認定者割合が昨年度に比べ2%上昇しました。</p> <p>福井フューチャーマイスター認定者割合 87.1%</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○教員の授業力・指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 各高校において5教科の授業力向上リーダーを校務分掌に位置づけ、授業公開や校内の教科研究会において教員の指導力を高めるとともに、生徒の成績分析を行い、弱点を補強するなどして、学力向上を図ります。 (平成29年度 ー) <p style="text-align: center;">授業力向上リーダーによる授業研究 100回</p> <ul style="list-style-type: none"> 到達度確認テストの問題作成において、若手・中堅教員を育成するとともに指導主事が分析結果をもとに学校訪問を行い、授業力向上リーダーとともに授業公開や教材の活用法などによる授業改善を行います。 プロジェクターなどのICT機器を高校13校に整備し、2学期から授業で活用するとともに、教員の自主研究活動への支援などを行い、プロジェクター用教材の作成・収集・共有を進め、授業改善を行います。 (平成29年度 ー) <p style="text-align: center;">教材作成に取り組むグループ 15グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導、進学指導に定評のある退職教員を配置し、授業スキルや添削指導、進学指導のノウハウについて教員に指導を行います。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>普通科高校において、授業力向上リーダーによる5教科の授業研究会を100回実施するとともに、各校の授業力向上リーダーが情報共有・意見交換を行う研修会を開催し、有効な指導事例等を学ぶ機会を設けることにより、教員の指導力や生徒の学力向上を図りました。</p> <p style="text-align: center;">授業力向上リーダーによる授業研究 100回</p> <p>問題作成能力等を向上させるため62人の若手・中堅教員がテスト作成に携わり、到達度確認テストを3回実施しました。テスト実施後には、誤答分析・学習のポイントを示した資料を作成し、全普通科高校に配布するとともに、指導主事がテストの分析結果等をもとに学校を訪問し、授業参観・指導助言等を行うことで授業を改善しました。</p> <p>県立高校13校にプロジェクター、教員用タブレット端末、無線LANを整備しました。2学期から活用を開始し、8割以上の教員が授業で活用しています。プロジェクター用教材も、教員自主研究の重点テーマに設定し、20の教員グループが教材作成に取り組みました。</p> <p style="text-align: center;">教材作成に取り組むグループ 20グループ</p> <p>藤島高校に進学指導専門員を1人配置し、授業で使用する教材や東大・京大など難関大学の入試に向けた特別講座の教材について解説するなど、若手教員等に対し難関大学指導に係るノウハウについて指導・助言を行いました。</p>

項目	実施結果
<p>○学校業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動休養日の設定などの取組みを徹底させるとともに、学校、教員が担う業務の明確化や適正化など業務改善の方針を作成します。 専門的な技術指導や引率ができる部活動指導員を全中学校と高校9校に配置するとともに、事務作業を代行する学校運営支援員を全小・中学校に配置し、負担の軽減を図ります。 管理職が業務の進め方について指導力を発揮し、長時間勤務を縮減するとともに、県立学校に校務支援システムを導入し、業務の効率化を図ります。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>勤務時間管理の徹底、夏季休業中の学校閉庁日の設定等を行いました。また、退庁時間の設定やノー残業デーの導入、部活動の適正化などを盛り込んだ「学校業務改善方針」および「部活動の在り方に関する方針」を策定しました。</p> <p>部活動指導員を中学校37校、高校9校に配置し、指導体制の充実および教員の負担軽減を図りました。また、学校運営支援員を小・中学校162校に配置し、教員の事務作業軽減を図り、授業・教材研究の時間を確保しました。</p> <p>これらの取り組みにより、1月までの平均勤務時間は昨年度より小学校で7分、中学校で9分、高校で4分短くなりました。</p> <p>管理職が勤務時間管理を徹底し、長時間勤務者に業務の進め方を指導したこと等により、1月までの月80時間以上の時間外勤務者の割合が、昨年度より小学校1.1%pt、中学校6.7%pt、高校4.3%pt、特別支援学校0.9%pt減少しました。</p> <p>また、全県立学校で校務支援システムの運用を開始しました。</p>
<p>○児童・生徒はみんな笑顔に</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校を未然に防止するため、「通うのが楽しい学級づくり（学級運営の手引き）」、「福井県不登校対策指針」を改訂するとともに、全小・中学校において、児童・生徒の意識調査を年3回行い、授業や行事の改善につなげていきます。 スクールカウンセラー等の増員、養護教諭や特別支援教育コーディネーター対象の研修を行い、各学校において子どもたちが気軽に相談できる教育相談体制の充実を図り、生徒の特性に配慮した教育を進めます。 (平成29年度 750人) <p>小・中学校の不登校者数 680人</p>	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>10月に「不登校対策指針」、2月に「通うのが楽しい学級づくり（学級運営の手引き）」を見直し、公立学校の全教員に配付するとともに、研修会等により周知を図りました。</p> <p>また、全小・中学校で児童・生徒の意識調査を3回実施し、魅力ある学校づくりに向けた授業や行事の改善につなげました。</p> <p>スクールカウンセラーを10人、スクールソーシャルワーカーを3人増員し、特に不登校児童・生徒が多い学校等に配置し教育相談体制の充実を図りました。</p> <p>また、全公立学校の養護教諭・生徒指導主事・特別支援教育コーディネーター合同研修会を2回実施し、子どもの個性や特性に応じた教師の関わり方など、生徒理解に対するきめ細かな配慮についての指導等を行いました。</p> <p>不登校の多い学校には指導主事が年2回訪問し、具体的な取組みを指導・助言した結果、昨年度より全体の不登校者数は減少しました。しかし、小学校では、友人関係や学業不振だけでなく、家庭環境など教育の観点のみでは対応が困難な場合も増加したため、目標達成に至りませんでした。</p> <p>今後は、小学校のスクールカウンセラーの配置を増やすとともに、家庭環境の改善を支援するスクールソーシャルワーカーをより積極的に活用するよう市町教育委員会に助言していきます。また、意識調査を継続するとともに、研修を通じた不登校対策指針に基づく学校での初期対応の徹底、市町指導主事の指導力向上を図り、特に新規不登校者数の抑制を図っていきます。</p> <p>小・中学校の不登校者数 720人（見込）</p>

項 目	実 施 結 果
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校に学校ジョブコーチを配置し、就労応援サポーター企業や実習機会を拡大することにより、生徒の一般就労を進めます。また、技能検定を実施し、生徒の技術や働く意欲を培うとともに、生徒一人ひとりの特性に合わせた就労支援を行います。 (平成29年度 31.5%) <p>特別支援学校生徒の一般就労率 35.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校において通級による指導を開始し、コミュニケーション面や社会性など、発達障害のある生徒の障害に応じた指導・支援を進めます。 ・共生社会条例の施行を踏まえ、特別支援学校と小・中・高校のスポーツや文化を通じた学校間交流をさらに進め、障害についての理解を深めます。 	<p>就労応援サポーター企業は 33 社が加わり、242 社が登録しました。また、学校ジョブコーチが昨年度の 49 人を上回る 60 人の企業実習等を支援し、生徒の特性に合わせた就労支援に努めましたが、卒業後、就労移行支援事業所を経て一般就労を目指す生徒が多く、目標達成に至りませんでした。</p> <p>今後、サポーター企業を活用した就労支援に加え、高等部 1 年生からの実習を一層推進し、生徒の働く意欲や自信を培う就労支援を強化していきます。</p> <p style="text-align: right;">特別支援学校生徒の一般就労率 32.8%</p> <p>4 月から特別支援学校より 2 人の通級指導担当教員を高校 6 校に派遣し、通級指導対象生徒 12 人に対し、状況に応じた会話や行動ができるよう、コミュニケーション能力向上のためのカウンセリング等の支援を行いました。</p> <p>特別支援学校と小・中・高校の学校間交流を小学校 13 校、中学校 7 校で実施しました。</p> <p>また、障害者スポーツ大会正式競技のバスケットボールやソフトボール等での高校部活動（3 校）との合同練習や、ボッチャ等の障害者スポーツでの小・中学校との交流を通し、障害についての理解を深めました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇学校の再編・統合</p> <p>○県立高校の次なる再編に道筋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹南地区では統合再編する高校ごとに準備委員会を設置し、平成32年度(2020年度)に向けた再編の準備を進めます。二州地区では敦賀高校において新学科設置の準備を進めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>鯖江・丹南、武生工業・武生商業、武生、敦賀の各校で準備委員会を設置し、教育内容の充実等カリキュラムを中心に検討を実施しました。</p> <p>3月には、平成32年度入学者選抜の対象となる中学2年生向けの広報パンフレットを作成・配布し、周知に努めました。</p>
<p>○県立学校の長寿命化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に即した学習環境を整備するため、県立学校の大規模改修を進めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>三国、嶺北特支、嶺南東特支の3校4棟の大規模改修を実施するとともに、嶺北特支、嶺南東特支の2校4棟の実施設計を行いました。</p> <p>また、暑さ寒さ対策やバリアフリー化などによる学習環境の改善と、建物の80年使用に向けた長寿命化計画の策定を進めました。</p>
<p>○県立学校の特色強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科高校の特色を伸ばしていくため、地域や保護者を巻き込んだ学校活動の検討を進めます。 ・若狭高校海洋学科の海洋観測の実習、若狭湾全域での体験航海などに活用するため新たに建造する「雲龍丸」の仕様および活用方法を検討します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>高校に地域の住民や保護者、中学生を招き、生徒の学習成果を発表する公開講座や市町と連携したプロジェクト学習の実施等、地域と連携した学校活動や地元中学生との交流活動の検討を進めました。</p> <p>また、中学校への広報活動や学校説明会の開催など特色の発信に努め、平成31年度入学者選抜から新たに実施した特色選抜では、226人の生徒が合格しました。</p> <p>乗船可能人数を増やすなど実習に適した仕様を検討し、新実習船の設計を実施しました。また、若狭湾内の体験航海や小・中学校の総合的な学習の時間での活用など、実習以外の多目的な活用方法を検討しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献</p> <p>◇県民の健康サポート・システム【部局連携】</p> <p>○子どもの目と歯・生活の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> 全小・中学校において、目を休めたり、目の動きをスムーズにする運動を行う時間を設けるとともに、家庭においても目によい生活習慣を定着させ、近視予防につなげます。 歯科医師会と協力し、全小学校において「正しい歯みがき教室」と、全ての1、4年生を対象にした歯の二次健診を実施するとともに、家庭と協力して正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進します。 (平成29年度 72.2%) <p style="text-align: center;">むし歯のない小学生 73.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットの適正利用について、引き続き全小・中学校において児童・生徒が自主的にルールを作成するとともに、高校においては生徒会が中心となって話し合いを進め、「ふくい高校生スマートサミット」を開催します。 子どもに正しい生活習慣、読書やお手伝いの習慣を身につけさせるため、PTAと連携した研修を行うなど、家庭の教育力を高めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全小・中学校において、学校の日課表に位置づけて朝の会などを中心に、目を休める「目のリフレッシュタイム」と目の動きをスムーズにする「ビジョントレーニング」を行うとともに、小学1、2年生の保護者に、目に良い生活習慣のチェック表を配布し、家庭での日常生活においても、視力低下の防止に努めました。</p> <p>全小学校において、1～4年生を対象に歯垢染色剤を用いた歯みがき教室を開催するとともに、1年生と4年生に対しては、口型模型を活用した歯みがき指導や歯科二次健診を行いました。また1、2年生の保護者に、歯磨きチェック表を配布し、家庭での正しい歯磨きの習慣化を図るとともに、むし歯治療の勧奨を行い、むし歯のない小学生が増えました。</p> <p style="text-align: center;">むし歯のない小学生 74.2%</p> <p>全小・中学校において、児童会や生徒会を中心として自主的なルールの作成を行いました。 また、8月に39校の代表69人が参加して「ふくい高校生スマートサミット」を開催しました。その中で、ネット・スマホの適正利用に向けた取組みを学校毎に発表し、共同宣言を確認しました。</p> <p>子どもの読書の重要性やインターネットの適正利用、生活習慣等をテーマとしたPTA地区別研修会を県内5地区で開催し、917人の保護者が参加しました。 また、「基本的生活習慣」、「インターネットの適正利用」、「いじめ防止」に係る家庭教育用リーフレットをそれぞれ作成し、保護者に配付しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇ 「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】</p> <p>○日本でいちばんおいしい学校給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の特産品や地場産食材を使用した給食を全小・中学校で年3回提供し、食に関する学習を行うとともに、生産者との交流による農業体験等を通して食育を推進し、子どもたちの福井の食文化への理解や地域への愛着を深めます。 ・県漁連やJA等と協力し、安価な地魚などの地場産食材を活用したおいしい学校給食を提供します。 ・学校給食調理コンテストを開催し、児童・生徒の食への関心を高めるとともに、学校給食甲子園等の全国大会において上位入賞を目指すことにより、本県給食のレベルアップにつなげます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>本県の特産品（ふくいポーク、若狭牛、ふくいサーモンなど）や地場産食材を使用した学校給食を、全小・中学校において3回実施しました。あわせて食育の授業や農業体験等を行い、児童・生徒が食の大切さを学び、食文化への理解や地域への愛着を深めました。</p> <p>栄養教諭がプロの料理人とともに開発したメニューなどを活用して、地場産食材使用率を高めた給食献立を全小・中学校で月1回以上提供するとともに、地場の魚や農畜産物を使った加工品（真鯛フライ、穴馬スイートコーン粒、若狭牛コロッケ等）を開発し、提供しました。</p> <p>学校給食調理コンテストに県内26校37チームの児童・生徒が参加し、地域の食材や食文化への理解を深めました。また、全国学校給食甲子園（文科省所管）において、春江・坂井学校給食センターが「21世紀構想研究会特別賞」を受賞しました。</p>
<p>5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇観光フロンティア・福井【部局連携】</p> <p>○観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業系高校の観光の授業において、旅行者などの外部専門家による授業や地域の観光資源を発見するフィールドワークを行い、高校生の視点から地域活性化に貢献する観光プランを発信します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>商業系高校全6校で、地域の魅力を発信するため、観光に関する授業を実施しました。</p> <p>旅行者など外部専門家による授業を28回行い、専門的な知識の習得と観光プランの評価を実施し、生徒の興味・関心を高めました。また、観光プランの実践やイベントへの参加など37回のフィールドワークを実施し、研究成果をもとに観光情報誌やPR動画、ポスターを作成しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>6 国体・障スポの成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に</p> <p>◇県民総参加の福井国体・障スポ【部局連携】 チャレンジ施策</p> <p>○競技力を高め「優勝」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井国体で総合優勝するため、スポーツケアトレーナーの帯同を増やし、選手のけが防止やコンディションの維持・管理を強化するとともに、スーパーアドバイザーの帯同による戦略分析や観客と一体となった応援を行い、勝利につなげます。 <p>(平成29年度 7位)</p> <p style="text-align: right;">国体総合成績 優勝</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>福井国体においては、長年取り組んできた選手の育成・強化、本番での戦略分析やコンディション管理に加え、多くの県民の声援と選手の奮起により、天皇杯および皇后杯の獲得という完全優勝を果たし、目標を大きく超える成果を上げました。</p> <p style="text-align: right;">国体総合成績 優勝</p>
<p>◇「スポーツ福井」の実現</p> <p>○競技施設の利活用促進 チャレンジ施策</p> <ul style="list-style-type: none"> 男子100m日本人初9秒台の大記録が誕生した県営陸上競技場(9.98スタジアム)を陸上競技の聖地として全国へPRし、全国高校総体等の各種全国大会や大学のスポーツ合宿等を誘致するとともに、県内のスポーツ活動や選手強化の拠点等として利活用を進めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県営陸上競技場に、愛称サインボードをはじめ、トラックをイメージした統一のデザインを施すとともに、スマートフォンで桐生祥秀選手やはぴりゅうとの記念写真が撮れるアプリを制作し、国体・障スポでもPRしました。</p> <p>また、8月に県営陸上競技場で日本陸上競技連盟がやり投げ日本代表級選手の強化合宿を実施し、本県の国体選手も参加しました。国体・障スポ後も、スポーツイベントや中学生の県大会、強化練習の会場として活用しました。</p> <p>なお、2020年度には、全日本シニア・マスターズ体操競技選手権大会をはじめ、柔道、バレーボール、バドミントン等の全国大会の本県開催が決定したほか、2021年度には全国高校総体が本県を中心に開催されます。</p>
<p>○子どもから大人まで気軽にスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> 国体デモンストレーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催します。 <p>(平成29年度 32回)</p> <p style="text-align: right;">イベント開催数 34回</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全市町において、国体開催競技の紹介や国体デモンストレーションスポーツの体験会をはじめ、県民が気軽に参加できる様々なスポーツイベントを開催しました。</p> <p style="text-align: right;">イベント開催数 34回</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○「福井県スポーツ推進計画」の見直し チャレンジ施策</p> <p>・福井県スポーツ推進計画について、これまでの進捗状況を評価し、「国体・障スポ」後のスポーツ振興に向け見直しを行います。</p>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>第1次計画推進期間（H25～30）の施策の成果分析を行うとともに、スポーツの実施状況やスポーツ振興への意見を聞く「スポーツに関する県民意識調査」を国体・障スポ後に実施し、計画の見直しを進めています。</p>
<p>◇福井の文化をもっと身近に ○文学館の新展開</p> <p>・「幕末明治福井150年博」や「国体・障スポ」関連の企画展、全国初の「おしどり文学館協定」に基づく荒川区との相互協力による合同企画展等を開催します。チャレンジ施策</p> <p>・「ふくい文学ゼミ」や、高校の文芸部などが交流する「文学フェスタ」を開催し、若い世代の文学者の創作活動を支援します。 （平成29年度 累計72人）</p> <p>文学ゼミ修了者数 18人増 累計90人</p>	<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>幕末明治福井150年博事業として「幕末の福井を描いた小説」展、国体・障スポ文化プログラム事業として「スポーツと文学」展等を開催しました。また、おしどり文学館協定1周年を記念し、福井県および荒川区において津村節子氏に関する合同企画展や記念講演会を開催しました。</p> <p>作家養成講座「ふくい文学ゼミ」を開講し、25人が修了しました。また、ゼミ修了者や高校・大学の文芸部、文芸団体などが活動発表・交流する「文学フェスタ」を開催するとともに、三浦しをん氏など著名作家の講演会、俳句や小説などの創作講座等を開催し、若い世代の文芸創作活動を支援しました。</p> <p>文学ゼミ修了者数 25人増 累計97人</p>
<p>○子どもの文化・芸術活動</p> <p>・吹奏楽推進校に大型楽器の整備を支援し、中・高連携による合同練習・演奏会を開催するとともに、全中学・高校の吹奏楽部に外部指導者を派遣し、吹奏楽の演奏技術や指導技術の向上を図ります。</p> <p>・一流の演奏家による指導や合同練習・演奏会の機会を拡充し、小・中・高校が連携しながら弦楽奏者の育成を目指します。 （平成29年度 219人）</p> <p>弦楽クラブ等参加者数 220人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>吹奏楽活動推進校（高校7校、中学校19校）において、大型楽器の整備を支援し、推進校同士の合同練習・演奏会を実施しました。また、希望する全中学・高校の吹奏楽部に外部講師を派遣し、専門的な技術指導を行ったことにより、北陸大会や全国大会で入賞するなど、生徒の演奏技能および教員の指導技術が向上しました。</p> <p>一流の演奏家（五嶋みどり氏等）による研修会や、合同練習会など、発表の機会を増やして演奏技術の向上を図り、小・中・高校の弦楽クラブ参加者を育成しました。</p> <p>弦楽クラブ等参加者数 220人</p>

項 目	実 施 結 果
<p>・小・中・高校で越前和紙を活用した日本画の授業を行うとともに、東京藝術大学との連携を進め、出前授業や美術部員の研修会を実施する高校の研究推進校を増やします。 (平成29年度 39校)</p> <p style="text-align: right;">研究推進校（美術） 41校</p>	<p>小・中・高校で越前和紙を活用した日本画の授業を行い、作品展を県内2カ所で開催しました。また、東京藝術大学との連携を進め、新たな研究推進校（高志・鯖江）において、東京藝大院生による出前授業や美術部員の研修会を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">研究推進校（美術） 41校</p>
<p>○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ</p> <p>・福井の先人の業績や生き方などをわかりやすく展示するとともに、体験メニューを工夫し、来場者の拡大を図ります。 (平成29年度 57,650人)</p> <p style="text-align: right;">来場者数 60,000人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>本県出身の国文学者・芳賀矢一に宛てた夏目漱石の手紙に続き、本県出身の哲学者・松本源太郎が夏目漱石の成績を記した手帳など貴重な歴史資料を発見し、展示を行いました。また、幕末明治福井150年博事業として特別展を開催し、芳賀矢一などの業績を広く県民に知らせるとともに、子どもたちが関心を持つことができる参加型の展示を多く行いました。</p> <p style="text-align: right;">来場者数 66,835人</p>
<p>○県立図書館の充実</p> <p>・著名人を朗読アドバイザーに委嘱し、朗読講座を開催するなど、県民の読書への興味関心を高めています。</p> <p>・小・中・高校に図書館の利用を働きかけるとともに、市町公共図書館と連携して、子どもの読書活動を推進します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>元NHKアナウンサーの加賀美幸子氏を「福井県文学特別顧問」に委嘱し、朗読会および親子向け講座を開催しました。本県ゆかりの作品や古典文学について、朗読の第一人者である加賀美氏の朗読を交えての解説や一緒に朗読する機会を提供することで、県民の文学への興味関心を高めました。</p> <p>新たに「福井県立図書館利用ガイド（学校用）」を作成し、全小・中・高校に配付するとともに、図書の設定貸出しや小・中学校教員等を対象にした研修会の開催などにより、学校や学校図書館の支援を行いました。</p> <p>相互貸借ネットワークを活用し、市町公共図書館を通じて遠隔地の学校への県立図書館資料の貸出しサービスを促進しました。また、県立図書館司書が市町公共図書館とともに学校に出向き、出前講座を行いました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇福井が誇る歴史遺産の発信【部局連携】</p> <p>○国宝・重文の指定迅速化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建造物や工芸品、民俗などの文化財の指定を進め、観光やまちづくりへの活用につなげます。 (平成29年度 累計38件) <p>国宝・重要文化財・県指定文化財の新規 指定件数 12件増 累計50件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建物の構造や文献などの総合的な調査を支援します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>国指定では、「金銀鍍菊花文散銅水瓶 (越前市)」、「明通寺寄進札 (小浜市)」の2件が文化財に指定されました。 県指定では、「木造聖観音菩薩立像 (福井市)」や「オシッサマのお渡し (福井市)」など、新たに12件の文化財を指定しました。</p> <p>国宝・重要文化財・県指定文化財の新規 指定件数 14件増 累計52件</p> <p>丸岡城の国宝指定に向け、坂井市が行う建築時期を特定するための調査や、これまでの調査結果をとりまとめた報告書作成を支援しました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)